

子育て支援メッセいしかわ2021ーオンラインで親子に伝えるー

団体名●子育て支援メッセ実行委員会(事務局:(公財)いしかわ結婚・子育て支援財団内)芥川ゼミナール
代表者名●芥川元喜(人間科学部こども学科・准教授)

はじめに

芥川ゼミナール2年生が「子育て支援メッセいしかわ2021」(子育て支援メッセ実行委員会主催:11月14日(日)ネット上でオンライン開催)に出演する動画を制作した。

「子育て支援メッセいしかわ」は3年続けて、3回目の参加をさせて頂いた。開催方法は、コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度と同様、オンラインでの開催となった。文中の写真は実際に配信された動画配信の画面画像である。



写真1 動画配信映像・オープニングの様子

企画・制作の活動

ゼミ生は、実行委員会の担当者の方々から開催の趣旨説明を直接聞き、親子で楽しんでみてもらえる動画を制作しようと7月から話し合いを始めた。ゼミ生でいろんな案を出し合い、話し合い、動画の台本づくりを行った。



写真2 テスト動画を見て改善点を話し合う様子

動画の主な内容は、前半は親子で工作をして、後半は工作したものをイメージしながら、室内で体を楽

しく動かすというものである。テーマは『つくって、とんで、ピョンピョンピョン』というテーマにした。コロナ禍で、子どもたちがなかなか存分に外に出掛けて遊ぶことができない状況をいつも頭に置きながら、学生たちが話し合い、内容を考えていった。

以下、実際に子育て支援メッセいしかわのホームページに掲載して頂いた学生のメッセージである。「コロナ禍でがんばる子どもたち、小さなお子様のいるご家庭にエールをこめて制作しました。みなさん、きょうは、おねえさん、おにいさんといっしょにあそぼう! どうがをみて、いっしょにつくって、いっしょに遊びましょう! からだもいっばいうごかすよ!おたのしみに!」

前半「親子で工作の時間」の制作

「親子で工作の時間」は、親子で、ものづくりを楽しめる動画にすることを目的に制作した。学生たちは、親子で楽しく、家庭にあるものを使って、簡単に作れる、をテーマに、親子で安全にゴムを使って飛ばせるおもちゃを作る内容とした。



写真3 実際に工作にはどれくらいの時間を要するか等、何度もシミュレーションを行う様子

後半「体を楽しく動かす」の制作

「体を楽しく動かす」では、室内で安全に体を動かすことができる遊びを考えることにした。そこで、跳ぶ運動に焦点を当て、学生たちも何度も体を動かして考えた。一番大事なことは安全であることを考え、動きを何度も確認しながら話し合った。



写真4 体の動きを確認し合う様子

実際の収録

オンライン配信なので、事前の10月に動画の撮影と収録をいしかわ子ども交流センターで行った。

収録は、子育て支援メッセ実行委員の方々や動画編集に関わる映像制作会社の方々と一緒に、場面ごとに収録をしていった。実際のテレビ番組を制作する現場のようで、NGが出ると学生も関係者も笑い、和やかな雰囲気で行われた。実行委員の方々や映像制作会社の方々からもシーンについて、助言などを頂き、学生にとって、こうした方々との関わりも地域・社会連携を学ぶ上で大切であったと考える。



写真5
収録場面：
本番の様子



写真6 場面ごとに学生も希望を伝え、編集の相談をしている様子



写真7 映像に映らない学生もしっかり場面を支えている

成果、結果の考察

学生は、企画の話し合い、準備、練習で、夏休み期間もゼミを行い、収録を含めて、多くの時間を費やしたが、その学生には達成感、充実感があった。動画の収録・編集は、実行委員会の方や映像制作会社の方のお力を借りた。効果音やBGM曲のお願い等、学生からのお願いにもすぐに対応して頂いた。こうした周囲の方々の温かい支えがあることも学生たちの大きな励みになった。

コロナ禍で、大学生も日常生活にも大きな影響を受けている。筆者のゼミナールは将来、小学校教員を目指す学生が多い。こうした学生たちが、こうした社会状況で、自分たちが出来ることは何なのかを問うことはとても大切なことと考える。この活動は、コロナ禍の子どもたち、親子への想像力をはたらかせながら活動ができた。この経験が、将来の教職、また教職でなくても、それぞれのこれからにつながっていくと考える。

学生の振り返りの感想のなかに「子ども、親子にとって楽しい、を考えることは、実は自分たちの楽しい、につながると思いました。」とあった。今回のいしかわ子育て支援メッセへの参画、子どものために何ができるのかを考えることの大切さと尊さに気づけたことは、何よりも、学生の財産となった。



写真8 動画配信映像：エンディング